

考動・躍動・感動

学生の本分～文武両道～

大学選手権決勝で負けたチーム・選手に関する記事です。みんなはこの記事を読んで、何を思いますか。監督のとった措置を厳しいと感じますか。『決まりは決まり』だから仕方がないと考えますか。

みんなも、家族・各担任の先生・部活の顧問・クラブチームの指導者など、たくさんの大人から、

「部活だけでなく、勉強も頑張ろう！」

「好きなことだけやっていたはダメ。自分の苦手なことにも一生懸命取り組もう！」

「一番大切なことは日々の生活！」

など、同じようなことを言われた経験があるでしょう。大学生も中学生も同じ学生です。やはり学生の本分は授業(勉強)であり、日々の生活です。今あなたは、授業(勉強)や日々の生活を大切にできていますか。3学期になり、少し気が緩んでいる人はいませんか。今一度、自分自身の生活を振り返ってみましょう。この選手が腐るどころか学ぼうとした態度・「下のやつ(補欠でも必死に頑張っている仲間)らがいる、オレがいる」と発した言葉が全てを証明してくれているように思いますし、私たちも大切にしたい想いですね。



文武両道 厳しい「決まり」

早大4年の黒木は今季、新チーム発足時から夏合宿まで試合出場を一切禁じられていた。理由は、単位が足りなかったから。ラグビー部は後藤監督が就任した昨年、「申請した単位のうち7割を取得できなかった部員は練習試合にも出さない」と決めた。黒木は3年時、その基準に満たなかった。20歳以下日本代表の黒木はチームにとって不可欠な存在。でも、後藤監督は「決まりは決まり」と一番下のEチームに黒木を落とした。早大にはこれまで留年生や卒業できない部員がいた。学校や親を納得させる意味でも、文武両道の旗印を掲げる意味でも、譲れない決断だった。面白いのは、黒木が腐らず、学ぼうとしたことだ。Eチームにはなかなか指導者の目が届かない。だが、4年の仲間を上を目指し努力している。「下のやつらがいて、オレがいる、ときれいごとじゃなく実感できた」。その感慨は、この日のプレーと無縁ではなかった。「最後にふさわしい試合ができたと思います」(野村周平)



1月4日(朝日新聞)

【保護者の皆さんへ】

～「琴」(文科箏)の授業について～

「日本の伝統音楽に親しもう」ということで、文化箏を一人一台使い、基本的な奏法を学びます。最初の2時間は講師の先生に来ていただき、箏の歴史や奏法の基礎を教えてください。「4時間で『さらさら』をマスターすること」が目標です。この授業を通して、日本の伝統音楽に触れ、楽器の音色や音楽の特徴について興味をもち、理解を深めることができたらと思います。(音楽科：田村)

15日(水)から各クラスでスタートしていきます。

